

2025年3月期 1Q決算ダイジェスト

2025年3月期 第1四半期 経営成績

	2024年3月期1Q(前期)		2025年3月期1Q(当期)			
	実績	構成比	計画	実績	構成比	前年同期比
売上高	217億 35百万円	-	231億 80百万円	241億 68百万円	-	+11.2%
売上総利益	68億 34百万円	31.4%	73億 13百万円	72億 67百万円	30.1%	+6.3%
販管費及び 一般管理費	43億 72百万円	20.1%	47億 67百万円	45億 26百万円	18.7%	+3.5%
営業利益	24億 62百万円	11.3%	25億 45百万円	27億 41百万円	11.3%	+11.3%
経常利益	25億 59百万円	11.8%	28億 25百万円	28億 54百万円	11.8%	+11.5%
四半期純利益	17億 66百万円	8.1%	19億 98百万円	19億 59百万円	8.1%	+10.9%

※()前年同期比

売 上 高	241億 68百万円	(+11.2%	+24.3億円)
I. 部門別			
(1)ラボ・インダストリー部門	196億 63百万円	(+10.9%	+19.4億円)
①ラボラトリー	145億 53百万円	(+10.0%	+13.2億円)
②インダストリー	51億 9百万円	(+13.6%	+6.1億円)
(2)メディカル部門	43億 67百万円	(+12.7%	+4.9億円)
(3)その他 (T21手数料)	1億 37百万円	(+2.3%	+0.0億円)
II. 中計主要売上成長施策			
(1)eコマース	79億 84百万円	(+23.3%	+15.1億円)
①集中購買	36億 95百万円	(+16.1%	+5.1億円)
②Wave	3億 82百万円	(+44.1%	+1.2億円)
③AXEL	5億 68百万円	(+11.7%	+0.6億円)
④ネット通販	33億 38百万円	(+32.5%	+8.2億円)
(2)海外事業	12億 16百万円	(+4.6%	+0.5億円)
①中国	7億 32百万円	(▲7.4%	▲0.6億円)
②その他	4億 84百万円	(+30.1%	+1.1億円)

※()前年同期比

売上総利益	72億 67百万円	(+6.3%	+4.3 億円)
売上総利益率	30.1 %	(▲1.4 p)	

主な要因

・調達コストの上昇と並行して機動的なプライシングを実施しているものの、メディカル部門における販売商品構成の変化に加えラボ・インダストリー部門でも高額の設定・装置（粗利額は大きい）が率が低下する傾向）が増加したこと等により、1.4ポイント低下。

販売費及び一般管理費	45億 26百万円	(+3.5%	+1.5 億円)
-------------------	------------------	---------	-----------

主な増減

(1) 運賃及び倉庫作業料	12億 78百万円	(+12.8%	+1.5 億円)
変動費である当費用は、前年同四半期においては効率化措置が奏功し売上増にも関わらず総額が減少したが、当四半期は効果一巡し売上成長並みの増加となった。大口取引も増えるもEC増加に伴う小口出荷も増加しており、工数増加傾向に対し各種施策を実施中。			
(2) 人件費	16億 35百万円	(+10.0%	+1.5 億円)
賃上げを含めて人的資本への投資配分を増加させているが、付加価値額に相当する一人当たりの売上総利益額は前年同期に比して増加。（当第1四半期@9.8百万円、前年同四半期@9.6百万円） ※平均連結人員数 当第1四半期740人、前第1四半期708人			
(3) 不動産賃借料	3億 11百万円	(▲38.0%	▲1.9 億円)
昨年4月に賃借で開設した阪神DCのフリーレント期間（2024年4月～7月）に当たることから、同施設の3ヶ月分の不動産賃借料が抑制されたこと、前年の阪神DC開設後の準備期間に重複利用していた外部倉庫の解消が進み減少。			
(4) 減価償却費	2億 5百万円	(▲3.8%	▲0.1 億円)
中之島クロスラボ開設に伴う建物及び構築物に2.4億円投資するも、当第1四半期の減価償却費への影響は少額。全体としては微減。			

補足

①売上高：15年連続増収、13年連続過去最高更新

経常利益：4年連続増益、4年連続過去最高更新

当期純利益：4年連続増益、4年連続過去最高更新

②部門別

計画比では、ラボラトリー分野+3.3%、インダストリー分野+4.5%、メディカル部門+7.4%、その他+3.5%

③中計施策

計画比では、EC+6.5%、海外事業+9.5% 合計+6.9%

以上